

西胆振地域医療構想の今後の対応方針（案）について【資料3】

平成30年4月 北海道室蘭保健所

【基本的考え方】

- 西胆振地域医療構想の実現に向け、推進管理に係る工程表である「地域医療構想推進シート」に基づき進める。
- 平成30年2月7日付け「地域医療構想の進め方」等厚生労働省関係通知を踏まえるとともに「公的医療機関等2025プラン」など各医療機関の方針等について、地域医療構想調整会議において共有しその役割について議論しながら進める。

【平成30年度からの対応方針】

① 医療機関の役割分担について

- 「公的医療機関等2025プラン」作成の公的医療機関が担う役割が明確化することを踏まえ、これらの対象でない、その他の医療機関については、現状と担っている役割を踏まえた今後の方針を明らかにするよう求め、地域医療構想調整会議において協議する。
- 求める内容は、自施設の現状と課題、地域において今後担うべき役割、今後、提供する医療機能（4機能毎の病床、診療科の見直し等）、その他について、所定の様式を定め、地域医療構想調整会議に提出。
- 地域医療構想調整会議において、将来のバランスのとれた医療提供体制構築のための方向性共有（各医療機関の役割分担の明確化）を図る。
- また、「室蘭市地域医療あり方検討会」については、今後、検討の推移を把握する。

② 将来不足が見込まれる病床機能の把握について

- 病床機能報告と2025年の必要病床数の単純比較では、高度急性期、回復期に不足が見込まれ、急性期、慢性期が過剰となっている。
- 病床機能報告においては、病棟が担う医療機能をいずれか1つ選択することとされているが、実際の病棟には様々な病期の患者が入院している。
- これらを踏まえ、西胆振地域の将来の医療需要の増加に的確に対応するため、医療機能の過不足の実態について、病床機能報告数値以外の把握の方法（例、病床機能との関連する項目を定め病床単位での報告を求める）等について検討し、不足している機能を明確にし共有を図る。

③ 病床が全て稼働していない病棟を有する医療機関への対応

- 全て稼働していない病棟を有する医療機関については、稼働していない理由及び今後の運用見通しについて計画を求め推進管理の対象とするとともに介護医療院や介護保健施設等への転換及び廃止を基本とするについて協議する。
- 全て稼働していない病棟を再稼働しようとする医療機関は、再稼働した場合に担う予定の病床機能が、構想区域全体で過剰である場合には地域医療構想調整会議において協議する。

④ 現状の病床数について

- ①及び②の議論の前提となる西胆振地域の病床数は、病床機能報告数値のうち、「稼働病床数」とする。

